

令和元(2019)年度栃木県農業大学校評価シート

目指す方向 魅力ある農大づくり ～農大の価値を高め、農大への人の流れを作ろう！～

重点目標	現状と課題	評価項目 評価指標	具体的方策		経過・達成実績	達成度	次年度の課題と改善方向	関係者評価委員会からのコメント
			取組項目(○)と内容(・)					
2 入学生の確保	<p>(現状)</p> <p>○近年の本科入学生はH29が65名、H30が61名、H31が59名と定員80名を下回っている。</p> <p>○H31の受験者も定員を下回る64名であった。</p> <p>○オープンキャンパスを年に3回実施しているが、参加生徒数は伸び悩んでいる。</p> <p>○農業関係以外の普通科系高校へ訪問したり、HPに年間100回を超える記事を公開するとともに、農大農産物の販売や各種イベントの会場として活用することにより、農大のPRを行っている。</p> <p>(課題)</p> <p>●高校生や農業者等に対して、農大の存在や特徴を認知してもらう必要がある。</p> <p>●就農を目指す応募者の増加を図る必要がある。</p> <p>●本県農業の特徴や目指す方向である、いちごや露地野菜をコース名等として表出するなど、対外的にわかりやすいコース設定を検討する必要がある。</p>	<p>本科応募者</p> <p>80名以上</p> <p>本科入学者</p> <p>80名以上</p> <p>オープンキャンパス参加生徒数</p> <p>160名以上</p>	(1)オープンキャンパス等による農大の理解促進	<p>○効果的なオープンキャンパス等行事の開催</p> <p>・高校の進路指導担当者を対象とした学校見学会を開催し、高校内での農大志望学生の増加につなげる。</p> <p>・農業系高校対象のオープンキャンパス(第1回)を引き続き実施(5/28)し、出身学生との意見交換会を行い生の声を聞いてもらい進路選択に資する。</p> <p>・当校を会場にしたイベント等を積極的に受け入れ、本校を知ってもらい、入学希望者の増加につなげる。特に、小中学生等を対象にした実習体験や見学会などにより農業への興味を喚起する。</p> <p>○オープンキャンパスの魅力向上</p> <p>・一般の高校生を対象とした第2回(6/23)、第3回(7/26)で、農業経験がない生徒に実習体験・講義等を行い、理解促進を図る。</p>	<p>(1)オープンキャンパス等による農大の理解促進</p> <p>○効果的なオープンキャンパス等行事の開催</p> <p>・個別(オープンキャンパス以外)に学校見学会を実施</p> <p>・6/11 矢板高校</p> <p>・9/19 烏山高校</p> <p>・農業高校8校の指導担当者を同時に集めることを試みたが、スケジュールの関係で実現できず</p> <p>・5/28第1回オープンキャンパス参加者 63名(うち生徒57名)。各学校の卒業生と意見交換会を実施。アンケート調査結果からは、十分理解が得られたなどの好評価</p> <p>・県民バスや各種研修会の日程調整等を実施</p> <p>・5/13 保育園いちご摘み取り体験受入れ 25名</p> <p>・5/20 小学生いちご摘み取り体験受入れ(2校) 111名</p> <p>・7/1 小学校社会見学受入れ 42名</p> <p>・8/6 わくわく自然学校 受入れ 20名</p> <p>・8/9 農業関係高校発表・校内見学 100名</p> <p>・9/18 清原東小 出前授業 20名</p> <p>・9/2～9/6、9/30～10/4、11/18～22 宮っ子チャレンジ(中学生職業体験)受入れ 計3校10名</p> <p>・10/2 鳥獣害対策研修会 50名</p> <p>・10/10 県民バス受入れ 50名</p> <p>・11/11 GAP研修会受入れ 40名</p> <p>・11/13 ハウス強靱化研修会 20名</p> <p>・12/25 豚コレラ(CSF)対策研修会 50名</p> <p>・2/4 スマート農業とちぎ推進フェア (200名)</p>	<p>B</p> <p>(72名/80名 = 90.0%)</p> <p>B</p> <p>(71名/80名 = 88.8%)</p> <p>B</p> <p>(126名/160名 = 78.8%)</p> <p>※評価基準</p> <p>A: 90%以上</p> <p>B: 70%以上</p> <p>C: 50%以上</p> <p>D: 50%未満</p>	<p>(1)オープンキャンパス等による農大の理解促進</p> <p>○効果的なオープンキャンパス等行事の開催</p> <p>・農業高校指導担当者のスケジュール調整が難しいため、学校訪問時に詳細な説明を行うとともに、意見聴取の上、今後の入学生の確保に活かしていく。</p> <p>・3年生の参加が多数であるが、2年生の参加も重要なため、開催時期・開催内容の見直しを検討する。</p>	
			(2)高校、JA等への積極的訪問	<p>○県内高校生を対象とした農大PR</p> <p>・県内の全高校77校(定時制含む)を対象に、前半(推薦入試対象)と後半(一般入試対象)にそれぞれ学校訪問を行い、本校理解に基づく進路指導による応募者増につなげていく。</p> <p>○県内農業系以外の高校への戦略的アプローチ</p> <p>・下野新聞社主催の専門学校進路相談会(9/4)に参加し、県内の多くの高校生に本校の魅力や特徴を発信し、進学先としての理解促進を図る。</p> <p>○県外高校対策強化</p>	<p>(2)高校、JA等への積極的訪問</p> <p>○県内高校生を対象とした農大PR</p> <p>・6月上旬～9月上旬までの期間に、各地域割り当て担当職員が77校を訪問。指導担当や進路指導担当に説明、生徒に資料配布を依頼</p> <p>○県内農業系以外の高校への戦略的アプローチ</p> <p>・9/4に進路相談会へ参加し、本校を志望する生徒に対して説明</p> <p>本校ブースで個別に説明を聞いた生徒: 5名</p> <p>○県外高校対策強化</p>	<p>(2)高校、JA等への積極的訪問</p> <p>○県内高校生を対象とした農大PR</p> <p>○県内農業系以外の高校への戦略的アプローチ</p> <p>大規模な説明会にもかかわらず本校のブースで説明を聞いた者はわずかであった。普通科の学生が多数のため、農業への関心が見られないことが課題となったので、次年度はインパクトのある展示等を工夫する。また、参加時期も9月(第3回)から5月(第1回)に変更を検討する。</p> <p>○県外高校対策強化</p>	<p>・オープンキャンパスにおいて、農大の魅力ある取組を知ってもらえるよう、学校を訪問する活動を強化することが有効である。</p>	

令和元(2019)年度栃木県農業大学校評価シート

目指す方向 魅力ある農大づくり ～農大の価値を高め、農大への人の流れを作ろう！～

重点目標	現状と課題	評価項目 評価指標	具体的方策	経過・達成実績	達成度	次年度の課題と改善方向	関係者評価委員会からのコメント
			<p>取組項目(○)と内容(・)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入学実績のある県外高校や隣接県の高校へ訪問し、進路指導主事や生徒に本校の特徴をPRするとともに、県外高校生の個別学校見学に対して適宜対応する。 ○JAへの訪問 ・より多くの農家子弟の入学促進に、JAのネットワークを活用するためにJA中央会と連携し、県内全てのJAを訪問し、より具体的な情報交換を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・近隣の県外校及び実績のある県外校2校へ入試案内等の郵送及び訪問を実施。県外の個別見学にも随時対応 ○JAへの訪問 ・学校訪問時と併せて地域のJAへ訪問し本校の案内や入試について説明 		<ul style="list-style-type: none"> ・課題として、県外高校からの推薦ができるように要領を改正したが、今年度県外推薦入試合格者4名に留まったため、その周知が引き続き必要である。 ・早い時期に県外農業高校等を訪問し、農大の入試制度をPRする。 ○JAへの訪問 	
			<p>(3)農大の魅力発信の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ○HPの充実 ・季節に応じた内容をタイムリーに情報発信していく。 ○各種広報誌等でのPR ・季刊誌への学生PRを継続するとともに外部広報誌等の新規開拓を図る。 ・学生募集告知について依頼を行う。 ○マスメディアの活用 ・季節の話題を積極的にメディアに提供し、取り上げられる機会の増加を図る。 	<p>(3)農大の魅力発信の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ○HPの充実 ・HPの更新と削除を適宜実施。 ○各種広報誌等でのPR ・季刊誌「しもつけの心」に6名(3回)の学生記事提供 ・広報課の行うチラシ等の設置にも手を挙げ上半期と下半期に1回ずつ設置 ○マスメディアの活用 ・5/9 知事・夫人(母の日)カーネーション贈呈などでメディアを活用 		<p>(3)農大の魅力発信の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ○HPの充実 ○各種広報誌等でのPR ・外部広報誌の新規開拓が課題であり、引き続き情報収集に努める。 ・各JA広報誌への掲載状況が十分でないので、年度当初に各JAの担当者を把握し、ネットワークを構築して情報のやり取りを行っていく。 ○マスメディアの活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・市町への発信も必要と思われる。 ・JAとのさらなる連携により、10JAの広報誌や日本農業新聞への記事掲載を充実させることが可能である。
			<p>(4)入試方法の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ○出願期間等の改善 ・後期出願者をより多く確保するために、願書受付期間を2週間から3週間に拡大する。(1/17～2/7) 	<p>(4)入試方法の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ○出願期間等の改善 ・1/17～2/7に願書受付期間を1週間延長、出願者3名 		<p>(4)入試方法の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ○出願期間等の改善 ・出願者は前年度と同数で期間延長の効果が見られなかったため、次年度は農業関連大学の合格発表時期を見極めながら、延長期間を検討していく。 	